

2019年3月期 決算説明会 主な質疑応答（要旨）

**Q 1 : APLL の合理化の進捗状況について。**

A 1 : 人員の合理化、顧客との取引条件の見直し等がかなり進捗しました。今後は効率化だけではなく成長のための投資も行っていきます。

**Q 2 : 今期の航空貨物の物量目標 67 万トン は意欲的ではありませんか。**

A 2 : 日本発ではここ数ヶ月減少傾向が続いていますが、今後当社グループが伸ばすべきは、私たちがまだ十分に手をつけられていないアジア発米州・欧州向けのレーンです。世界に目を転じるとまだまだ取扱いを伸ばせる部分があると認識しています。

**Q 3 : 長期ビジョンでの「純有利子負債ゼロ」を目標とした背景について。**

A 3 : 高い目標ではありますが、キャッシュフローを改善していく上で顧客からの立替金の早期回収など社員に対して意識付けをするためにもこの目標を設定しました。成長のための投資、株主還元等を実行した上で進めていきます。

**Q 4 : 長期ビジョンでの「営業収入 1 兆円」は M&A も考えての目標設定ですか。**

A 4 : 新たな取扱品目を展開していく中で M&A を考えていく必要はあると思いますが、現時点で具体的な案件はありません。目標の 1 兆円企業に向けてグループ一丸となり、フォーワーディング事業をドライバーに規模拡大を図っていきます。

**Q 5 : 配当性向、ROE の目標指標を示さなかった背景について。**

A 5 : 2019 年 3 月期の配当性向は 21.9%で、今後も安定配当に努めていきます。ROE については色々な考え方がありますが、今回は ROE に固執した経営方針とはしませんでした。

**Q 6 : 厳しい事業環境の中、2020 年 3 月期を増益計画にした背景について。**

A 6 : この 1～2 週間で米中の状況が変わってきましたが、今期の数値目標には織り込んでいません。

**Q 7 : 中期経営計画の営業総利益率目標を 16.4%とした背景について。**

A 7 : 2019 年 3 月期の実績水準を維持するということで設定しました。低い水準ではないと認識しています。物量を拡大する中でこの率を超えていくことで利益額もそれな

りの数字を残せると考えています。

**Q 8 : 2020年3月期のAPLLの営業利益が前期比で横ばいにとどまる理由について。**

A 8 : APLLの子会社であったCarmichael社が今期からKWEの米州セグメントに移管することなどが要因です。

**Q 9 : 顧客のサプライチェーンが中国からシフトした際、業績にはどのような影響がありますか。**

A 9 : 荷主側でもまだ検討段階のケースが多いのが現状です。実際にシフトが起こってきた際にその状況・ニーズに合わせてライトアセットを基本に対応していくことになります。

**Q10 : アジア発米州向けについて物量の伸び率のKPIについて。**

A10 : 当社グループの東アジア・オセアニア発航空物量に占める米州向けは14%、東南アジア発では16%であり、できればそれぞれ20%程度までに引き上げたいと考えています。

以上